

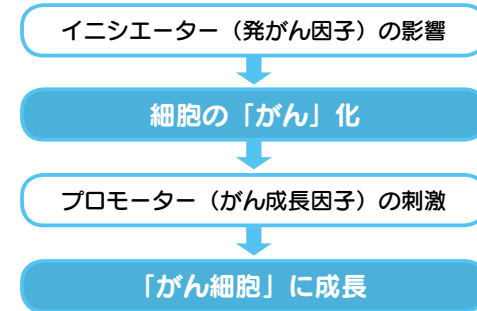
# 知っておきたい

# 男性・女性特有のがん

## そもそも「がん」って…どんな病気？

「がん」は、“細胞の遺伝子が傷ついて起こる病気”です。私たち人間の体は、すべて細胞で構成されています。細胞は、普通に生活しているだけで常に刺激や毒性のある物質などにさらされていますが、通常、刺激などで傷ついた細胞は、自己回復し、元通りになる力があります。

しかし、細胞の持つ回復力をはるかに超えるダメージを受けると、傷ついた部分が回復できず、細胞自身が正常な動きをしなくなったり、別の働きをしたりすることがあります。そして、さらにダメージが強くなったり、大きくなったりすると、傷ついた細胞が「がん細胞」になってしまうことがあります。これが、「がん」の始まりです。



●イニシエーター、プロモーターは、「発がん物質」とも呼ばれます

イニシエーターの例…  
タバコ／排気ガス／食品添加物  
／紫外線／放射線 など

プロモーターの例…  
タバコ／農薬や断熱材に含まれる成分 など

男性・女性特有のがんで、それぞれ危険因子は異なりますが、いずれも定期的な検診と日々の健康管理(右記参照)が大切です。



## 乳がん

乳がんの罹患数は年間7万件以上で、女性がかかるがんでもっとも多いがんです。胃がんや大腸がんは高齢になるほどかかりやすい特徴がありますが、乳がんは40～50歳代と比較的若い世代から多いのが特徴です。



### 危険因子

- 初潮が早い／閉経が遅い ●妊娠や出産経験がない ●初産年齢が遅い
- 授乳歴がない ●閉経後のホルモン補充療法 ●肥満（閉経後）
- 飲酒 ●喫煙 ●高身長 など

### 症状

早期の段階では自覚症状に乏しいとされる乳がんですが、進行とともに症状が現れます。よく知られる症状の1つに乳房のしこりがありますが、乳腺のしこりは他の病気でもみられ、約90%が良性とされています。乳がんのしこりは硬く、あまり動かないのが特徴です。しこりを発見したら、自己判断せず、専門医の診断を受けるのがおすすめです。

## 子宮頸がん

子宮頸がんの発症は、30～40歳代がピークです。50歳代以降では減少する傾向にありますが、20～30歳代で増加傾向にあるのが特徴です。



### 危険因子

- HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染
- 多産 ●HPV以外の性感染症
- 喫煙 ●経口避妊薬の使用 など

### 症状

初期にはまったく症状がないのがふつうです。月経でないときの出血（不正性器出血）、臭いの強いおりものなどが典型的な症状ですが、ある程度進行してから現れる症状です。婦人科の診察で発見しやすいがんですので、定期的に検査を受けることが大切です。

### 女性編

### 男性編

## 前立腺がん

男性特有の前立腺がんは、60歳以降に増え始める高齢者のがんです。近年では、40～50歳代での発症も増えています。



### 危険因子

- 食生活の欧米化（動物性脂肪や高たんぱくの食事が増え、野菜の摂取が減っているとリスクが高まる）
- 高齢者 ●血縁者に前立腺がんになった人がいる など

### 症状

初期には特有の症状がありません。進行すると、尿が出にくい、尿の回数が多くなる、残尿感、夜間頻尿、血尿などがみられます。骨に転移した場合は、背中や腰の痛み、足のしびれなど激しい痛みを伴います。また、前立腺肥大症の症状と共通点多く、両方の病気を合併してしまうことも珍しくありません。

### 前立腺がんを早期発見するための「PSA検査」

PSAとは、前立腺でつくられるたんぱく質の1つです。前立腺に異常があるとその一部が血液中に入り、PSA値が上昇します。PSA検査では、採血し腫瘍マーカーを調べることで、前立腺がんの可能性を診断します。ただし、前立腺肥大症などの症状にも反応するため、他の精密検査と組み合わせることで総合的に判断されます。  
※この他、問診や直腸診なども行われます。

がんについてもっと知りたい方は「国立がん研究センター がん情報サービス」で検索  
組合ホームページリンクコーナーでも紹介しています。